



# 夫婦同姓はたかだか百年

現在の日本の法律では、男女が結婚する時、男女いずれかの氏(法務省は姓や名字を氏と呼ぶ)を夫婦の氏としなければならぬ。

## 氏の歴史は僅か百年

「選択的夫婦別姓制度」への支持が拡がっている一方「別姓になると家族の一体感がなくなる」との反対も。しかし、徳川の時代、庶民に氏は無かった。一八九八年(明治31)施行の旧民法で「戸主と家族は家の氏を名乗る」とされ夫婦同姓となった。高々百年ちよつとの歴史。それ以前、家族に氏は無くても一体感があったと思う。

翻って海外を見ると、中国、台湾、南北朝鮮では別姓。英国には姓を律する法律は無く、伝統的に妻が夫の姓を称する。中高の英語の

教科書で夫婦別姓の場面が出て来なかった訳だ。一部のヨーロッパ諸国では二十世紀初頭に夫婦同姓とされたが、二十世紀末になって夫婦別姓も可となったという。一九九〇年頃イタリヤの住宅街を歩くと、殆どの家の表札に二つの名字があった。知人に聞いたなら「夫婦別々の姓だから」と云われた。

## 選択的夫婦別姓を

現在日本では九割以上の夫婦が男性の姓。女性は姓の変更で、結婚前の仕事の成果を無視されたり、改姓の諸手続に忙殺される。

国連女性差別撤廃委員会から同姓制度の改正を、三回も勧告されている。そろそろ選択的夫婦別姓にしたら? あなたはどう思われますか?

## 湯殿川の向こう

東京都八王子市山田町  
二〇二一年四月



湯殿川は京王高尾線とJR横浜線の間を東に流れ、多摩川に注ぐ。カルガモ、セキレイや鶉が憩う。

この辺りは湯殿川が台地を削って出来た谷が平野になっている。その谷の南側から北西を眺めた。

この谷には畑が広がる。八王子市は東京都下随一の農産生産高を誇っている。

この辺りの、あちこちに野菜の無人販売所があり、新鮮な季節の野菜が手に入る。畑の間をのんびり歩き、こうした無人販売所を訪れるのは楽しい。

休日には近くの住宅街から子供連れがやってくる云々。

向かいの丘にはひときわ目立つ五重塔がある。光明第五保育園のある雲龍寺だ。

春霞に奥多摩の山々が連なっている。

先週はお休みしました

